

# 市の対策

松を守るには、媒介者となるカミキリムシの「駆除」や、健康な松には薬剤を施し、枯れないように「予防」することで線虫の被害拡大を食い止めることが重要です。市が取り組む具体的な方法を紹介します。

## 対策1 予防

### 地上散布

地上からスパウター（特殊散布機）で薬剤を散布し、媒介者となっているカミキリムシを駆除します。市内では、市民の憩いの場所となっている穂高・権現宮マレットゴルフ場内5.5ヘクタールに散布しています。周囲の薬剤散布をしていない松林と比べると枯れる木が少なく薬剤の効果が出ています。

### 空中散布（無人ヘリ）

高所作業車からラジコン操作により無人ヘリコプターで薬剤散布します。本年度は豊科・大口沢区



地上散布の様子



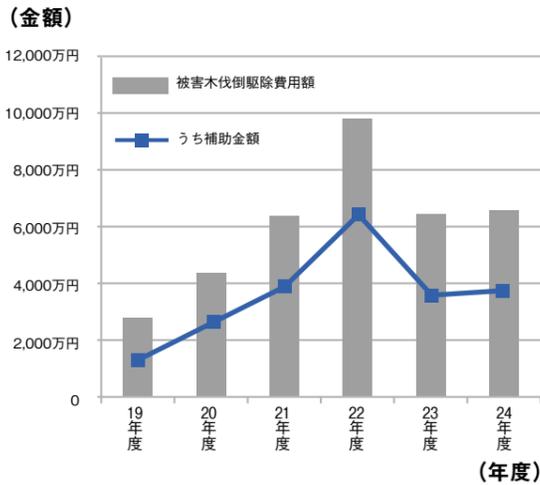
大型破砕機による処理の様子

林内に放置されるアカマツ残材にカミキリが産卵する可能性があるため、破砕機によりチップにし産卵を防止しています。破砕したチップは林内の作業路に敷きならし有効利用しています。

## 松くい虫被害対策にかかる費用

市では、激増する松枯れへの対策として主に枯れた松の処理対策をしてきました。伐倒くん蒸および破砕処理などの費用は、平成24年度で約6,600万円掛かっています。

### 伐倒駆除費用の推移



### 主な処理経費

#### 伐倒くん蒸費

1平方メートルあたり2万3,000円  
直径30cmのアカマツを伐倒材積約0.8平方メートル（枝を含む）

#### 樹幹注入

薬剤単価は1本約2,500円  
直径40センチメートルの松で約6本使用

### 伐倒焼却

被害木を切り倒し玉切りにし、枝も含め焼却することで木の中にいるカミキリムシの幼虫等を駆除します。



焼却処理（穂高・烏川河川敷内）

### 破砕処理

被害木を細かく砕いてチップにしてカミキリの幼虫やさなぎを駆除します。アカマツの間伐地においては、

トル程に玉切り、薬剤をかけビニールシートで包み、くん蒸することでカミキリムシの幼虫やさなぎを駆除します。これまでは景観に配慮して生分解性シートを利用していましたが、劣化が早く、くん蒸効果が失われる危険があるため、平成24年度からはビニールシートを使用しています。

## 長峰山 光城山

## 3月から伐倒くん蒸済み材の搬出作業を行います

長峰山から光城山へ続く林道長峰線・光城山線の沿線には、松くい虫被害木をくん蒸処理し、ビニールシートで被覆されたアカマツのくん蒸済み材が放置されています。市では、景観や落木等による事故防止のため、3月からこのくん蒸済み材を搬出します。作業中、林道の片側通行などにご理解とご協力をお願いします。

なお、搬出したくん蒸済み材については、天平の森の薪ボイラーの燃料やベンチ、プランター等に有効活用します。

